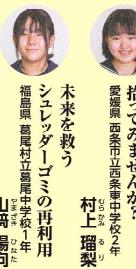


公益財団法人 イオンワンパーセントクラブ

受賞おめでとうございます

金賞



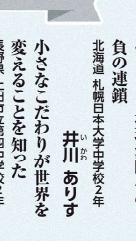
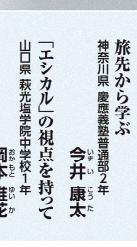
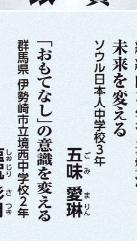
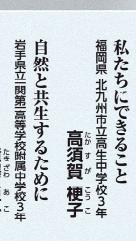
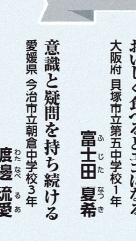
テーマ

第21回

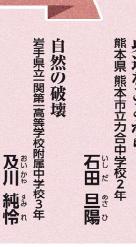
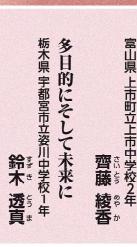
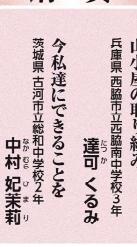
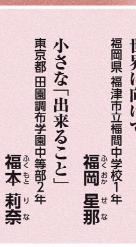
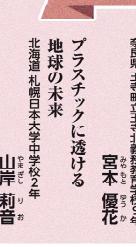
中学生作文コンクール表彰式

地球環境のために今できること

銀賞



銅賞



昨年の11月25日に、第21回「中学生作文コンクール」の表彰式が東京都内で開催されました。環境保全につながる自分の考え方や、日頃から取り組んでいた行動を表現した作文がたくさん寄せられました。審査員による厳正な選考の結果、金賞、銀賞、銅賞の各10作品が決定しましたので、紹介します。

7787点の作品が寄せられました

会場に集まつたのは、保護者の皆さんと喜びを分かち合つています。最後に審査員から受賞者へのお祝いの言葉

受賞者と保護者の皆さんです。式典は厳かに始まり、主催者代表の公益財団法人イオンの森美樹理事長のあいさつに続いて、審査員が紹介されました。

いよいよ賞状授与で

す。名前を呼ばれた受

賞者は、緊張の面持ちで登壇。プレゼンターの森理事長が「おめでとうございます」と声を掛けながら賞状を渡すと笑顔がこぼれました。授与を終えた受賞者たちは「とても緊張しました」「楽しかった」と

さの応募者の中から選ばれた金賞10名の方、ご家族の皆さん、本当にめでとうございます。

いただいた学校の先生方、そして多くの作品を審査していただいた審査員の皆さんに、御礼申し上げます。

この「中学生作文コンクール」は、多感な時期といわれる中学生の皆さん

が環境問題をテーマに作

文を書くことで、自分自身

の持続的発展として地域社会の伝統文化を支援して

います。

公益財団法人 イオンワンパーセントクラブ

第21回 中学生作文コンクール



「世界環境ラジオ・フォーラム開催」

富山県 富山大学教育学部附属中学校 3年



影響を与えた可能性があると専門家は指摘しています。海での音の研究が進む昨今、船舶騒音や潜水艦の探知ソナーなど、海がどんどんうるさくなっていることが分かつてきました。海洋生物を守るために、騒音との関係につ

を感じました。利益をうむ研究だけが優遇されるのはおかしいと思いました。このままでは、海洋生物を騒音から守る研究は見向きもされず、海を守ることができなくなってしまいます。今こそ世界中の人たちが海の騒音や異変を知

人々が真剣に議論できるとしています。海を守るために、まずは世界中の人々が話し合いのテーブルについて、利害関係なくコミュニケーションをとることが大切だと強思いました。

参考文献:朝日新聞GLOBE、2010年2月27日の記事より URL: <http://www.asahi-net.or.jp/globe/article/1012072052>

私が住む富山県の海、富山湾は、"天然のいけす"と呼ばれるほど魚介類が豊富な海で、私にとっては自慢の場所です。しかし、世界に目を向けると、今、海では大変なことがあります。起っています。2008年に、はカナダの海で、クジラの二種であるイッカクが1000頭以上死んだという報告がありました。原因としては、海底調査用に使われるエアガンの騒音がイッカクの行動パターンを狂わせたためと考えられています。また2022年には、地中海にある黒海で、延べ2500頭以上のイルカの死骸が打ち上げられているのがニュースになりました。ウクライナ侵攻により、黒海を航行するロシア軍艦に備えられて

いて、もっと調べる必要があります。

そこで私は、昨年度から富山高等専門学校の先生と一緒に魚に与える影響について、プラスチックの模型船を使って実験を行っています。富山湾で先生と一緒に魚を釣ってきて、富山高専の練習船のエンジン音を収録し、魚に聴かせて反応を調べる実験を実施するなど、様々な実験を見てきました。実験を発表する場にも恵まれ、全国の研究者の方にも研究発表を聴いてもらいました。

しかし、海洋生物を騒音から守る研究は、マイナーな部類の研究であることを知りました。理由は単純でした。お金にならない、予算がつきにくい

そこで私は、世界的規模の危機があります。海洋生物の危機を知る必要があり、そこで私は、ラジオ・フォーラムの創設提案します。これは、世界中の聞くことのできる国際放送ラジオ番組で、海の危機について、政府や企業、学者などを主導とする団体や市井の人々を話し合うことのできる場をSNSやメールでの会話が主流となり、人と人が直に言葉を交わすコミュニケーションが減つており、それがあらゆる人に害を与えていきます。ラジオであれば、ネット環境の整っていない発展途上の人々にも声が届くと田中さんもおっしゃります。ラジオだからこそ、感動が声にのつて、各国の政策提議します。

立派な環境まるで「接話」でかのうにならぬ
https://globe.asahi.com/article/12167253)
あれしかったです。富山県は魚がおいしいところです。私は魚が好きなので、地球温暖化や
により海の豊かさが削られていることを知つてもらうために作文を書きました。

廃棄場に捨てられない、短いサイクルで販売だ。流行の服を大量は、コストの安いボリューム生地が多く使用され、漠然に廃棄されたほとん多くは、生分解に20かかるとされている劣化ポリエステルで、こゝに素を発生し、深刻な災害になつてゐるそうちしながら、消費者が貢う量は増えており、年産量は2001年から年間で、2倍に増えていく。この事実を知り、ができるることを考えたその時、ふと思いつくがある。日本にいた時、新潟で「ア体験工房へ行つたところ、裂き織りは、江原は、コストの安いボリューム生地が多く使用され、漠然に廃棄されたほとん多くは、生分解に20かかるとされている劣化ポリエステルで、こゝに素を発生し、深刻な災害になつてゐるそうちながら、消費者が貢う量は増えており、年産量は2001年から年間で、2倍に増えていく。この事実を知り、ができるることを考えたその時、ふと思いつくがある。

新しい洋服を買つたりお洒落を楽しむことは、私たちの個性を表現でき、心も豊かにしてくれる、大切なものの一つであることは間違いない。

そのなかで、ファストファッショーンは、手軽にお洒落を楽しめる利点があると思う。しかし、技術面で進んでいる先進国側でさえも、大量に余っている古着を処理しきれないのだから、ごみ処分場など、の施設が不十分な発展途上国で、大量の古着を処理することは到底できないこと

は、想像ができる。ファストファッショーンがもたらした問題を解決する答えは、ファストファッショーンを着ないことで地を選択し、時間かけて織り上げたものは、個性も感じてやる。じ愛着もわいた。

ファストファッショントリニティ 行方から考える



はない」と思う。問題なのに、安いから・流行だからという理由で服を買い、愛着がもてず、捨てるところへのためらいがなくなっていることだ。各々がものを大切にする「怠い（おまい）」をもつことが重要だと考える。

私は、父の転勤で5月からアメリカで生活している。夏休み、近くの教会で不要になつて持ち込まれた古着を分別・仕分けするボランティアに参加した。新たに使用してくれる人に譲るための作業だったが、持ち込まれる衣類の量に驚いた。それより驚いたことは、譲るとはいえ、まだ新品ではないのかと思われる衣類があまりにもたくさんあつたことだつた。私は無駄に捨てられている衣類の現状が気になり、調べてみることにした。

そのなかで、南米チリの砂漠には不要になつた服が大量に捨てられていて、ファーストファッショーンの墓場が急速に拡大している、という記事を見つけた。これらの服は、中

(参考文献:エレン・マッカサ財団IIPより <https://www.ellenmacarthurfoundation.org/>)

アメリカから応募をする機会を与えて頂き、結果として金賞を受賞することができた事を大変うれしく思っています。作文で1番に伝えたかった、ものの大切にする「思い」をもち行動していくことはファストファッショングの問題だけではなく、未来の地域環境を守るのも繋がっていく重要なこの1つだと思っています。今回の賞を励みに、英語の勉強だけではなく、文章を書くことも引き続き頑張りたいと思います。

公益財団法人 イオンワンパーセントクラブ

第21回 中学生作文コンクール



台所から始めてみよう

岩手県 奥州市立水沢中学校 3年

竹花 紀慧



「ふりそそぐ日の光 月影
のせて 川は北上 ゆたかに
流れ※1
「流れつきぬ 北上川
胆沢川※2
これは僕たちの母校の校歌
の一部だ、生活を支え 風景
の一部になっている大切なも
のだからなのだと思う。

北上川の源流を行った。静
かな境内にある大木の根本か
ら流れ出る小さな流れ。夏
でも冷たく、口にするとやわ
らかさを感じる。命を育む
源であることを実感した。

追波湾に注ぐ河口に向かつ
た。川幅は広い。途中でたく
さんの田畠を潤したその後
は、太陽を受けて輝き、お
だやかだった。

僕は毎年水質調査に参加
している。今年も水質階級
Iだったが、これが続くとは
限らない。なぜなら、北上川
は四十年ほど前「死んだ川」
と言われていた時期があった
からだ。鉱山から出る強酸
性坑廃水で川は赤く染まり、
生き物がすめなくなってしま
つたのだ。きれいな川は当
たり前でないことを感じる。
また、川の水質汚染の原
因の一つに生活排水があるそ
うだ。思い当たることがある。
調味料がついた皿や牛乳が少
し残ったコップをそのまま
洗つてしまうことがあること
だ。そして、海へつながっ
ているのだ。

台所とつながっている問題
で、もう一気になつていて
とがある。食品ロスが二酸化
炭素を増やしているというこ
とだ。どういうことが調べて
みた。食べ残されるなどした
食品はトラックで運ばれ、町
燃ごみとして焼却されるから
だそうだ。その二酸化炭素
排出量は年間約三十七億ト
ン。総排出量の約8ペー
ントを占めるという。これも思
い当たることがある。うち
食べ残しはほとんどないが、
気づかずには賞味期限切れして
しまった冷凍食品や保存食、
開けたまま古くなってしまった
たジャムなどを廃棄すること
があることだ。

台所と世界はつながってい
るのだと思う。

その他、海のマイクロプラ
スチック問題、排気ガスによ
る人気汚染など喫緊の課題
も多い。でも、対象は地球。
規模が大き過ぎて何もできな
いと思えていたが、このまま
洗つてしまうことがあること
だ。そして、暖かくなると、
この風景が変わってしまうか
もしれない。さらに、大好き
なスキーをしたり新巻鮭やり
シラスを食べたりすることがで
きなくなってしまうかもしれ
ないなど、自分事として考え
ると、できることがたくさん
あるように見える。皿に残つ
た調味料をふいてから洗うこ
と、洗剤を使い過ぎないと、
食べ物を大切にすること。ま
ず台所など身近なところか
ら実践していくと思う。

僕たちにできることは小さ
く、すぐに結果は出ないけれ
ど、それこそが、将来の人々
に影響を与えていることを忘
れてはいけないとと思う。

風景を未来へ届けませんか。

※1 奥州市立水沢中学校歌 ※2 奥州市立水沢小学校校歌 (参考文献:Our World in Date HPより <https://ourworldindata.org/>)受賞した
感想

部活(科学部)の先生にコンクールのことを紹介してもらい、書いてみようかなくらいの気分で取り組みました。先生から電話で受賞を知られたときは、入賞すると思っていたなかつたので、すごくうれしかったです。



地産地消で明るい未来を

愛媛県 愛南町立御荘中学校 3年

占川 夏羽



あなたが今日食べた食材の
旬はいつですか。最近はハウス
栽培などの技術の発達によ
り季節を気にせず手に入れ
られます。一つは、エネルギー
消費の大きさです。ハウス
栽培のきゅうりは、露地栽培
のものと比べて約五倍のエネ
ルギーを消費します。もう一つ
は温室内効果ガスの排出です。
ハウス内の温度管理などに使
われる電力が大きな原因と
なり、地球温暖化につながる
ことです。野菜は旬の時期に
は味がおいしくなるだけでな
く、含まれる大切な栄養素の
量もぐっと増えます。旬の野
菜を食べることで、おいしく
健康に、そして、地球にやさし
い食生活を送つてはどうで
しょうか。これなら少し意識
すれば、どの人にもできそう
です。

私の家では毎年ゴーヤのグ
リーンカーテンを作つていて、
野菜はゴーヤやきゅうり、花
は朝顔とフウセンカズラを育
てています。このグリーンカー
テン作りは十年続く我が家
の恒例行事です。家族と一緒に
みんなが野菜を栽培し、地球
温暖化の抑制に貢献できてい
ます。

今回私は、食材が食卓に届
くまでの旅にも注目しました。
ある日の夕食。「今日はカ
レーにしよう」と決めたら、多
くの人はスーパーで食材を購
入すると思います。そのとき
が好きな私は、普段おいしく

感想

部活(科学部)の先生にコンクールのことを紹介してもらい、書いてみようかなくらいの気分で取り組みました。先生から電話で受賞を知られたときは、入賞すると思っていたなかつたので、すごくうれしかったです。

(参考文献:株式会社ヨロコヨーHPより <https://www.yorochyo.com/business/farm/>)受賞した
感想

受賞の知らせを受け、家族みんなで喜びました。私はバスケットボール観戦が趣味です。好きなチームがSDGs のプロジェクトをやっていたので環境問題に興味を持ち、作文を書いてみようと思いました。

公益財団法人 イオンワンパーセントクラブ

第21回 中学生作文コンクール



ゴミを拾ってみませんか？

愛媛県 西条市立西条東中学校 2年



父がなぜ急にゴミ拾いを始めたかが気になり、たずねてみると、「生まれてからずっと西条に住んでいるから、何とか西条市を良くして、地蔵温暖化防止にもつなげたい」と決意したそうだ。西条市には「さいやうす美化パートナー制度」というものがある。この制度は沿路や川、公園などの環境美化活動を行なうものである。この制度は

「」「おもろいゴミもたくさんあった。おもしろいといふば、近所でゴミ拾いをしていた時、乳酸菌飲料の『ビルクルル』がちょっと進んだら落ちていて、またちょっと進んだら落ちていてと、合計五つも落ちていて、みんなで大笑いしながら作業をした。あのことは、今でも笑ってしまう。

ほかにも、ゴミ拾いをしていたら、仕事に行く途中の叔父や、祖父、祖母とすれ違ったりしたことわざがあった。

ぬふりをしないでほしい。そしてその拾ったゴミをきちんとゴミ箱に入れて、「地球に良いことをしてほしい。」と思いつながらすると、やはり、爽快な気分になってくる。だからあなたもまずは「ちょっとした気持ちでもいいから一つだけ。ゴミを拾つみませんか？」

ある日、父がゴミ拾いをしようと誘ってきた。最初は「父が思つて言つているだけだ」と思い、散歩気分でついて行つた。やつぱりやり始めは、「ちょっと面倒だな」と思いつつ、ゴミを拾つていった。近所をちよつと歩いただけで、ゴミ袋の半分も集まつた。それだけ近所には「自分だけなら捨てもいいよね」「ゴミがあるけど、捨うの面倒だな」と思つて、る人が多いと

団体を募り、市と協力して地域の美しい環境づくりをすることが目的の制度である。父が、この制度に賛同し、ボランティア団体を作り、加入了。団体の一員である私も、定期的にゴミ拾いを始めた。そして、やっていると次第に楽しくなってきた。従弟も楽しそうにゴミ拾いを手伝ってくれた。だつて楽しいんだもん！近所もよく見ると、ゴミが多いけど、河川のダメ

た。 気づいた。一人で黙つてやつて笑い、自然に会話を生まれ、笑いながらゴミを拾つて、楽しくない、続かなくて、みんなでまたゴミ拾いをする。そのループの中に私はみんなが入つていると思う。なんだかうれしく感じて、

**受賞した
感想** 電話で受賞を知ったときは「まさか!」という気持ちで、とてもびっくりしました。こんなことはめったにないので、多くの人に自分の作文を読んでもらえるのはうれしいです。



未来を救う シュレッダーゴミの再利用

福島県 葛尾村立葛尾中学校 1年



私の学校は全校生徒五名のとても小さな学校だ。五人が協力し、何かできるSDGsはないかと意見を出し合つた。そこで、今までにもりサイクルしてきたシュレッダーゴミは、それを利用し、張子を作ることになった。シュレッダーゴミは、繊維が細く刻まれているためにリサイクルが難しい。焼却すると二酸化炭素が発生し、オゾン層が破壊され、結果的に地球温暖化を招く。それを少しだけ解消しようと、シュレッダーごみの再利用を家庭科の授業で考え始めたのがきっかけだ。私が小学生の頃の

家庭科の授業でSDGsについて学習した。持続可能なものほどより良い世界を目指すにはどうしたらいいかを考えた。リサイクルや節電節水は今の時代は当たり前に行わないといけない。物価も高くなり、電気もガスもガソリンも食料も何でも高くなっている。ニュースや新聞を見ても毎日値上がりの報道ばかりだ。今ある資源も、このまま使つていれば将来なくなってしまうのでは

今回は、全員で招き猫の張子を作ることに決めた。張子の作り方は、ショーレッダーバーグミに水とのりを混ぜ、柔らかくし、ミキサーにかけてかくはんする。次に、新聞紙を丸めておいたものに猫の形を整えながら貼り付けていく。乾けば可愛い招き猫の張子が完成する。仕上げに金の墨で「福」という漢字を書き、猫の模様や顔を書き入れた。五人一人ひとりの個性が出て、いろいろな表情の猫が二十個ほど完

うな気がして幸せに思つた。中学生でも協力し合えば明るい未来へ結んでいける。小さなリサイクルかもしれないが、この活動をずっと続けて、世界中の人が少しづづでも、エコな生活にシフトしていくばれば十年後も、二十年後も笑顔で過ごすことができる。地球のことを考えて、環境に優しく生活することを坚信していきたい。

に、中学校の先輩方からシュレッダーゴミを再利用して作った「しおり」を貰った。和紙で出来ているかのようなきれいなしおりで、そこに習字で文字が書かれていた。本に挟むたびに心が温かくなつた。「これがシュレッダーゴミから出来てゐるなんて」と驚いたことを今でも覚えてい。どうやつて作つたのか、中学生になつて一緒にシュレッダーゴミの再利用の活動がで成した。さらに支援で頃いた布で、招き猫の座布団もミニで縫つた。

早速、葛尾村の復興交流館「あぜりあ」で販売することになつた。一つ百円の価格で、売上金は全額寄付する。昨年も村の社会福祉協議会に寄付したそうだ。私たちの活動で少しでも多くの人を救えたら嬉しい。シュレッダーゴミといふ本来捨てるゴミを再利用し、販売できたことは、自分たち

福島県 葛尾村立葛尾中学校 1年 山崎 阳向

**受賞した
感想** 受賞を知ったときは、驚きすぎて「ウソだな」と思い
自分の思いが入っているので、読んだ人がSDGsの

作文がみんなに読まれるのは少し恥ずかしいですが、少しでも考えてくれたらいいなと思います。

公益財団法人 イオンワンパーセントクラブ

第21回 中学生作文コンクール



エシカルな
カエルになるために。

埼玉県 星野学園中学校 2年



そう、私がいうカエルとは、レインフォレスト・アライアンス認証マークの事だったのであります。私はこの活動を詳しく知りません。この可愛らしいカエルは一体、どのように世界に役立っているのでしょうか。レインフォレスト・アライアンス認証商品とは、社会、経済、環境の三つの面から責任を持つて生産された商品の事だそうです。環境に気をつけるだけではなく、農園内の児童就労や農家の方が適切な収入が得られているかも配慮されていなければ、レインフォレスト・アライアンス認証は受けられません。レインフォレスト・アライアンス認証マークがカエルなのには理由があります。それは、カエルは皮чувствительに反応できるようになります。そう思っています。そのためにはまず「知る事」が大切だと考えます。地球ではどのような環境問題が起こっているのか、それが続いているとどうなるのか、実際に調べてみると意外と知らない事や驚かされるものが多くありました。例えば、今のベースで地球温暖化が続いたら30億人が住む場所が50年後にはすすぎで絶滅した動物は約八百種などです。

この話を知り、今のうちから何かができる事はないかといふ気持ちで駆られました。そ

(参考文献)ハフingtonポスト(現ハフポスト)2014年6月12日記事より <https://www.huffingtonpost.jp/news/zetsumetsudobutsu-shashin/>

受賞した
感想

受賞したと聞いて、とてもびっくりしました。友だちには「すごい!」と言ってもらいました。自分の作文をたくさんの人間に読んでもらえると思ったら、うれしい気持ちになりました。

より住処を奪われた猪が人里におりてくるという新聞記事を目にした。

里山に太陽光パネルを設置するのは、所有者の収入源になるからだろう。かつて里山は薪というエネルギー源を供給する重要な役割があり大切にされたはずだ。しかし、そのエネルギー源が電気やガスへと代わり役割を失つた。高齢化で農業が困難となつた森林所有者が太陽光パネルに收入を期待するのも無理はない。だからこの解決には、所有者にとって森林が収入源として魅力あるものに復活する必要があると思った。

私はバイオ炭という取り組みを知つた。CO₂を吸収して成長した植物や、植物を食みを網で捕つた。C₆H₁₂O₆を分解して炭素を戻す取り組みである。大昔の炭素でできた化石燃料を大げにばらまいたのなら、それを植物に吸収してもらつて炭として地中に戻すのはわかりやすい取り組みだ。炭づくりにもエネルギーが必要だが、体耕田や建物の屋根など平地に設置した太陽光パネルで賄えればよいと思つた。バイオ炭はJ-1クレジットという制度に認定され、それによるCO₂吸收量はクレジットとして売買できる。里山の木々を計画的に伐採し炭に変え地中に埋める一方で、新たに植林を繰り返し、それで得たクレジットを必要とする企業などへ売ることで、山の所有者の収入源になるかもしれない。だが、木を薪にする作業は少し想像しただけでも大変だ。この重労働を自動で行える伐採システムや薪割ロボットを開発することが、日本の持続可能なエネルギー施策や環境施策となるのではないかと考えた。

今回、私は炭について興味が湧いてきた。私は大学へ進学するとき、生命や環境に関する研究をしてみたいと考えている。そのテーマの候補として、炭や炭素循環に関して、これからさらに深堀りしてみた

受賞した 感想

作文が好きで、これまで書いてきました。今回は書くにあたって、いろいろ調べて、結構苦労しました。賞をもらえるとは思っておらず「本当?」と2回聞いてしまいました。

公益財団法人 イオンワンパーセントクラブ

審査員からのメッセージ

審査員から作品を読んだ感想や講評をいただきました。



環境活動家

露木 志奈

私は高校の3年間、インドネシアのバリ島にある「世界で一番エコな学校」といわれるグリーンスクールに留学しました。学校では、問題の解決方法を考え行動する授業もありました。それまでは全く環境問題に興味がなかったのですが、これがきっかけで、今では国の中でも講演活動をしています。社会では学生であることが不ガティブにとらえたいと思います。

私が採点基準としたことはたったひとつ。「これから始まる」「これを続けた」という思いがじみ出ているかどうかです。

私は中学生の時に書いた作文をきっかけに、今の仕事につきました。当時、テレビの討論番組で取り



教育アドバイザー 清水 章弘

私が採点基準としたことはたったひとつ。「これから始まる」「これを続けた」という思いがじみ出ているかどうかです。

私は中学生の時に書いた作文をきっかけに、今の仕事につきました。当時、テレビの討論番組で取り

力作ぞろいでしたが、なかなかでも金賞の作品が特に優れていると思った点がうあります。

ひとつは自分の言葉でつづられていたことです。例えばごみ拾いのボランティアや自宅のグリーンカード。その体験が、意義のある成

果や喜びにつながっていく結果への展開は非常に上手でいました。

もうひとつは「文」文が長くないということです。新聞社では記事を書くための勉強会をしますが、まずは挙げられるのは「きちんとまとまった短い文章をつなげ

朝日学生新聞社 代表取締役社長
高田 圭子

る」ということ。この鉄則がすでに身についている皆さんはすごいと思いました。

筆力をさらに磨く方法は、書き上げた作文を声に出して読んでみると、音読すると、リズムの悪さや誤字、脱字に気付くことができます。

飛躍を期待します。



都内をめぐりながら環境について考える!

金賞受賞者を副賞の1泊2日の環境エコツアーにご招待

表彰式を終えた受賞者たちは、東京都内の各所をバスでめぐらながら環境について考える環境エコツアーに出発しました。驚きや発見が盛りだくさんのツアーの様子をリポートします。



1日目 見学! 国立競技場周辺を散策

参加者は紅葉を見頃を迎えた明治神宮外苑イチヨウ並木(東京都港区など)を歩き、都市部の樹木保全を考えました。そのまま徒歩で東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の会場となった国立競技場(東京都新宿区)へと向かいました。全国各地から森林認証を取得した木材を調達して作られた「軒庇」や環境負荷を軽減する設備などの説明を聞きながら競技場の外観を見学しました。その大きさに圧倒されました。

国立競技場の向かいにある日本オリンピックミュージアム(東京都新宿区)では、さまざまな環境保全の試みがなされた長野1998大会の遺産(レガシー)が東京2020大会へと引き継がれていることを展示から学びました。また、オリンピアンの身体能力に挑戦するゲームでは、体を動かして楽しみました。



2日目 見学! 明治神宮

初詣の参拝者数が日本一といわれる明治神宮(東京都渋谷区)。1920(大正9)年の創建にあたっては、約70万平方メートルの敷地に全国から集まった365種約12万本の樹木が植えられました。明治神宮は「永遠の社」を目指してつくられた人工林なのです。

約100年の時を経て、近年の調査で樹木は234種3万6千本であることがわかっています。これは東京の気候に合わない種類が自然淘汰されたということ。参加者は生き残った木々が大きく成長している姿を目の当たりにしました。



2日目 見学2 森美術館

ツアーアーの最終目的地は六本木ヒルズ(東京都港区)。商業施設、企業のオフィス、アートや学びの拠点が集まる街です。環境省エネに配慮した街づくりをかけており、森タワーの最上階(53階)の森美術館では「私たちのエコロジー: 地球という惑星を生きるために」という展覧会が開かれています。「環境危機に現代アートはどう向き合うのか」を感じながら、参加者はじっくりと見学していました。



1日目 見学2 植物工場見学

夕食の会場は、東武ホテルレバント東京(東京都墨田区)にあるレストラン、「ヴェルデュール」です。このレストランでは、最先端の農業技術として注目されている「植物工場」を店内に設置し、約10種類の野菜を生産しています。植物工場設備は、野菜の苗を並べた6段の棚に肥料を溶かした水を循環させ、光を当て育てる仕組みです。無農薬で高品質な野菜がレストランのサラダバーに並びます。

参加者は植物工場の特徴を学び、未来の農業について考えました。その後は、目前で料理長が収穫してくれた野菜を試食。「シャキシャキしていて、おいしい」と、とれたての良さを実感しました。



おいしい野菜を食べながら、未来の農業を考える

2日目のまとめ / ツアーの振り返り

みんなでディスカッション!

ツアーアーを終えた参加者たちは、環境問題に対してこれからどんな行動ができるかを改めて考えるディスカッションを行いました。

受賞者の中学生と保護者がそれぞれ2グループ、計4グループに分かれます。そして「地球環境のために今できること」をまずは個人で考え、それを共有しながらグループとして「みんなに伝えたいこと」をまとめました。

グループ発表では、「江戸時代を粹に発信」「フードロスを減らす!」などのアイデアが出されました。「日々の生活の中にできることがある」「みんなで統けたい」といった積極的な感想が述べられ、環境への意識がより高まるツアーアーとなったことを実感しました。



公益財団法人 イオンワンパーセントクラブ

イオン1%クラブの活動紹介

「お客さまからいただいた利益を社会のために役立てる」という想いのもと、

イオングループの主要企業が税引前利益の1%相当額を拠出し、

子どもたちの健全な育成 諸外国との友好親善 地域の発展への貢献 災害復興支援

を主な事業領域として、環境・社会貢献活動に取り組んでいます。



子どもたちの健全な育成

環境・社会をテーマに、子どもたちが社会的なルールを学びながら身近な地域の問題を主体的に捉え、考える力を育てます。



諸外国との友好親善

学生たちに国際的な文化・人材交流の機会を提供し、相互理解を深めることで日本と諸外国との友好親善を深めます。



地域の発展への貢献

地域に根ざし、次代に引き継ぐべき伝統行事や文化の継承を支援するとともに、地域社会が抱える諸問題の解決に取り組みます。



災害復興支援

大規模災害により被災した方が、日常の生活を一日でも早く取り戻せるよう、復旧・復興を支援しています。



詳しくはこちら イオンワンパーセントクラブ

検索

